

【活動編】 トンボみちの仲間たち

最近の活動のなかから、**月例活動(11月25日)**の様子をお伝えします。**サツマイモ、落花生、リンゴ**の大収穫です。(写真提供:工藤裕子さん、稲田瑠美子さん)



サツマイモ、あるかな?



あったよ~!



落花生、おもたい!!!



中野さんが料理してくれた大学イモが到着しました



こんなに穫れたヨ~



(大学イモはまだかな?)



花壇もいつも
キレイにネ!



リンゴに届くかなあ~



穫れたて出来立ての大学イモはサイコ~!!



収穫したリンゴ



不要な木を片付けましょう

【報告】トンボとい大作戦報告会・表彰式2023

～ 観音崎に生きもの好きが集まりました ～

今年1年間のトンボ調査を締めくくる報告会と表彰式がにぎやかに開催されました。

日時: 2023年11月26日(日) 14:00～15:30

会場: 観音崎自然博物館

主催: トンボはドコまで飛ぶかフォーラム

はじめに観音崎自然博物館学芸員の佐野真吾さんから「千葉県から東京湾を越えて観音崎へトンボやゲンゴロウが飛んできます。」という興味ぶかい講演があり、トンボ博士の田口先生とジュニア調査員の國師鷹晶さんからは今年の本調査およびトンボとい大作戦調査の報告がありました。タイワンウチワヤンマが増えている状況が心配ですね。



写真提供: 豊張信行さん

そして休憩をはさんで、ジュニア調査員養成講座報告と認定証授与、スタンフラー表彰が行われました。トンボみちの仲間では、土井源太さん(小6)がジュニア調査員に認定され、松本清治郎さん(小1)がフォーラム優秀賞を2年連続で受賞しました。ご家族を含めておめでとうございます!(^_^)☆銀

【トンボみち何でも調査隊】CAM型光合成を調べました!

～ 地球温暖化、地球沸騰化にも負けないかも? ～

11月号で、C4型光合成について調査しましたが、今回はCAM型光合成について、ウイキペディアから抜粋します。

「CAM型光合成(CAMがたこうごうせい)は、砂漠などの多肉植物や、同様に水分ストレスの大きな環境に生息する着生植物に多く見られる光合成の一形態である。これを行う植物をCAM植物と呼ぶ。この方法の特徴として、CO₂の取り込みを夜に行い、昼に還元することが挙げられる。CAMとはベンケイソウ型有機酸代謝のことで Crassulacean Acid Metabolism の頭字語である。

CAM植物は涼しい夜に気孔を開け、CO₂の取り込みを行い、昼は気孔を閉じることで水分の損失を最小限に抑えることができる。

CAM型光合成とC4型光合成は似ている点が多い。しかし、大きく異なる点としてC4型光合成がCO₂の濃縮、還元を葉肉細胞と維管束鞘細胞と場所を分けて行っているのに対し、CAM型光合成は夜と昼で時間的に分けて行っている点である。

CAM植物の例は、サボテン科、ベンケイソウ科、トウダイグサ科、アロエ属、パイナップル科である。」以上で光合成の調査終了です。かなり難しかったかな?(銀^^)



活動予定 ※雨天は1週間延期
今月: 12月23日(土) 9時～11時
来月: 1月27日(土) 9時～11時
事前の申込みは不要です。誰でも参加可能!

公式ホームページをご覧ください



トンボみちファンクラブ

検索

JFEトンボみち ファンクラブ通信 2023年12月号

発行日: 2023年12月20日

発行者: トンボみちファンクラブ

連絡先: ファンクラブ代表 柴田 090-4627-8821

◆ファンクラブ通信への自由投稿をお待ちしています
投稿してくれた方にはトンボバッチを差し上げます

※「JFEトンボみち」はJFEエンジニアリング(株)が地域の皆様に開放している公開緑地です

